

令和元年度 学生支援事業活動報告書

1 活動名 岩手県陸前高田市広田地区、小友地区における学習支援活動「夏の楽習会 2019」

2 指導教員：日本赤十字北海道看護大学 教授 根本 昌宏

参加学生：2年生2名、3年生2名（災害 beatS 研究会所属）

3 要旨

現地 NPO のパクトと協働し、東日本大震災の被災地である陸前高田市小友ならびに広田地区に子どもたちへの学びと遊びのプログラム「楽習会」を実施した。2011年8月に初めて楽習会を開催して以来ちょうど8年、22回目の活動となった。

楽習会の認知度は高く、4年連続の参加や、友達を連れてきてくれた子どもたちもいた。学生のうち3名は経験者であったことから、名前を呼び合いながら再会の場面があった。活動初日は多くの課題が挙げたが、2日目以降は課題解決を進め、子どもたちにより楽しんでもらうために臨機応変なプログラムを提供していた。陸前高田市の子どもたちが本学の学生を育ててくれる唯一無二の教育プログラムである。

8年が経過し、市役所の新築工事が始まる。このような中、本学の学生が活動を継続することには意義がある。子どもたちと学生との両方に大きなメリットがあるこの活動を、これからも継続・持続できる体制を形作っていきたい。

令和元年度 学生支援事業活動報告書

- 1 活動名 第10回 日本赤十字六看護大学学生交流会
- 2 指導教員：日本赤十字秋田看護大学 教授 廣渡 太郎
参加学生：看護学部2年生2名、3年生2名
- 3 要旨
日時：令和元年8月20日（火）、21日（水）
場所：日本赤十字広島看護大学、平和公園、平和資料館

1) 目的

今回の六大学交流会を通して、被爆時のヒロシマの救護活動と放射線の健康被害について知る、広島のと砂災害時の救護活動について知ることを企画テーマとしており、主に放射線、土砂災害について学びを深めること。どちらも危険な場所に身を置いて救護を行うため、その時の心情を知ること、災害時に看護職として私たちが行動するきっかけを作ること。また、放射線の健康被害についての学びを深め、これからの学習に生かすこと。実際の救護活動について知ることで災害看護についての関心と知識の向上を図ること。

目標

1. 赤十字他大学との交流を深め、視野を広げることができる
2. ディスカッションを通して個々の考えを深めることができる
3. 放射線と原爆について知識を深めることができる
4. 原爆や戦後を身近なものとして捉え、これからの看護活動に活かす
5. ヒロシマでの被爆時の救護活動の中での看護婦の役割について学び、今後自らの災害看護に役立てられる
6. 災害時に私たちが看護職としてできることを考える

2) 活動内容

- (1) 平和資料館見学
- (2) 平和公園散策
- (3) HICAREについての講義
- (4) グループディスカッション
- (5) 宮島散策

3) まとめ

2日間の活動を通して、放射線や原爆についての知識に対して触れることができる良い機会となった。また、被爆時の看護について、災害時の看護についての自分の考えについて深めることができた。各大学の学生と自分の考えをディスカッションすることで交流を深めることができた。

令和元年度 学生支援事業活動報告書

1 活動名 第10回 日本赤十字六看護大学学生交流会

2 指導教員：日本赤十字看護大学 教授 遠藤 公久

参加学生：看護学部3年生1名

3 要旨

令和元年8月20日、21日に、日本赤十字広島看護大学にて第10回日本赤十字六看護大学学生交流会が実施された。以下は主なプログラムである。

20日

- ・平和記念公園散策
- ・原爆資料館見学
- ・原爆時の救護に関するDVDの視聴
- ・HICARE（放射線被ばく者医療協力推進協議会）の方による講演

21日

- ・CNS（災害専門看護師）の方による講演
- ・宮島散策

1日目は原爆ドームや資料館の見学、また原爆が落とされた際に実際に救護に当たられた方のDVDを見ることで、その当時の持参な状況や恐ろしさを知った。そんな悲惨な状況の中責任感を持って、他人のために必死で救護を行った方々の話を聞くことで、人道とは何か、またそれを実践するためにどのように行動するべきなのかということ自分たちでよく考え学びを深める機会となった。また、HICAREの方による講演を聞くことで、自分がいかに放射線に関して正しい知識を持っていないのかということを実感させられた。汚染と被曝は違うこと、汚染検査や除染よりも医療が優先させられること、防護服を着用していても外部被曝はあるということなど、これ以上にも様々なことを知った。講演のタイトルが「次の原子力/放射線災害に向かって～ヒロシマ・フクシマの教訓に学ぶ～」であったように、正しい知識を得ること、実際に今まであったことを知ること、そしてそれらを広めていくことが今後に必要なことであるということ学んだ。

2日目は平成26年のヒロシマ土砂災害の際に現地ではどのようなことが起こっていたのか、その時に看護師はどのようなことをしていたのかということを実際に聞くことができた。そしてその話を踏まえたうえで、災害時における看護師の役割とは何か、災害看護の重要性とは何か、そして災害時に私たち学生ができることは何かということを話し合った。

2日間を通して自分が済んでいる地域にとってはあまり身近ではないこと、今までどこか他人事を感じていたようなことを詳しく学ぶことができ、とても貴重な機会となった。また、全国6大学の日赤生が集まり意見交換をしたり共に過ごしたりすることで、親睦が深まり、また良い刺激となった。

令和元年度 学生支援事業活動報告書

- 1 活動名 第10回 日本赤十字六看護大学学生交流会
- 2 指導教員：日本赤十字豊田看護大学 学生委員会委員 講師 長尾 佳世子
参加学生：看護学部2年生3名、3年生3名
- 3 要旨

令和元年8月20日～21日（移動日を含む）の期間で、日本赤十字広島看護大学を中心に実施された。各大学の照会に加え、それぞれの大学のある地域の特徴や名産なども照会され、その地域にあった訓練や研修を実施していることが紹介された。

本年度、広島という地を理解し、平和資料館で改めて歴史を学び、放射線被曝者医療国際協力推進協議会からの講義や災害看護専門看護師から、広島市での土砂災害時の救護活動の講義を受け、災害時、看護師として行うべきことを考える機会を得た。特に避難所生活を送る被災者への支援に国際生活機能分類（ICF）を取り入れて考えることや、支援する側が自分自身の感情に気づくことが大切で、学生のうちからボランティアに行く際にも意識していかなければならないことを学んだ。

毎年、違う大学で開催されることで、その地域にあった教育内容や演習が盛り込まれていることが視野を広げ、学びを深めるきっかけとなっている。

令和元年度 学生支援事業活動報告書

1 活動名 第10回 日本赤十字六看護大学学生交流会

2 指導教員：日本赤十字広島看護大学 学生支援委員長 教授 川西 美佐
参加学生：2年生1名

3 要旨

日程：令和元年8月20日（火）～21日（水）

場所：日本赤十字広島看護大学（広島県廿日市市）

テーマ：・被爆時のヒロシマの救護活動と放射線の健康被害について知る
・広島のと砂災害時の救護活動について知る

内容：原爆やその放射線の影響や、近年の異常気象によると砂災害など広島県ならではのテーマをもとに以下の企画を実施した。

①日赤看護学生として被爆時に救護活動をされた方のDVD視聴

原爆時に救護活動をされた方のお話のDVDを視聴し、満足な物資がない中、自ら被爆しながらも赤十字の看護学生として救護にあたった経験について学んだ。

②HICAREの方の講義

HICARE幹事の廣橋 伸之教授による講演で、原爆による放射線の人体への影響とその調査研究から得られた医療従事者に必要な放射線医学の基礎、緊急被ばく医療、原子力災害医療体制などを解説いただいた。原子力被害について、正しい知識を知ること、顔の見える関係性で情報共有を効率的に行うこと、焦らずに行動することの必要性を学んだ。

③災害専門看護師の方の講義とグループワーク

災害専門看護師の活動内容、安佐北区で起きた災害の概要や、どのような救護を行ったか、災害時に看護職としてできることは何か学んだ。

令和元年度 学生支援事業活動報告書

1 活動名 第10回 日本赤十字六看護大学学生交流会

2 指導教員：日本赤十字九州国際看護大学 学生支援委員長 教授 大重 育美

参加学生：1年生4名、3年生3名

3 要旨

第10回日本赤十字六看護大学学生交流会は、8月20日から8月21日に日本赤十字広島看護大学で開催され、本学から7名が参加した。今年、被爆時のヒロシマの救護活動と放射線の健康被害と開催地である広島県の土砂災害時の救護活動についての学習を行った。

交流会1日目は、原爆資料館を見学した後、被爆時の救護に関するDVDの視聴、HICAERの方の講演を聞き、グループでのディスカッションや質疑を行った。積極的に意見交換、発問し、被曝による健康被害や救護に対する学びを深めた。学生のうちから放射線に関する正しい知識を身につけ発信していけるようになりたいという感想を述べる学生もいた。

交流会2日目は、災害専門看護師の方の講義を受け、災害看護の重要性や災害時に学生としてできることについて討論を行った。学生からは、災害時は平時以上に苦痛緩和や尊厳の保障といった心身のケアが必要になることや、災害時にニーズを捉えたり小さな変化に気づく力を身につけるため、普段の生活から心がけていくことが重要ではないかという意見が上がった。午後からは宮島を散策し、他大学の学生と交流して仲を深める機会となった。

2日間を通して、広島歴史について学ぶとともに、放射線医療、災害看護についての知識をつけることができた。また、全国の赤十字大学の学生との関わりからも今後の学習や活動への意欲を高める交流会となった。